



進路だより

未来へむかって

発行者 新潟県立川西高等特別支援学校 進路指導部

ふれあいジョブ頑張ってます！！ いよいよ後半戦突入です。



いよいよ後半戦となりました。生徒も一生懸命に現場で頑張っています。特に3年生にとっては、自分の希望進路に向けて大切な実習となっている生徒が多いです。今週が終わると、あと1回を残すのみとなります。4週の集大成となるような姿で、働いて欲しいと思います。

現場実習に向けて

早いもので、あと10日ほど経つと現場実習が始まります。今年度は生徒数も多いことから取り付けが例年よりも時間を要している状況です。それぞれの家庭に覚書が届きましたら、早急に内容をご確認いただき、不明な点についてはお問い合わせください。内容が了承できましたら、署名と押印をよろしく願いたします。毎回のことですが、内容が分かりしだい、実習に必要な物品の準備はもちろん、通勤練習や余暇の過ごし方の確認など、各家庭において準備を進めてください。

2・3年生については、現場実習期間は給食が止まります。昼食準備などもご支援いただくこととなりますが、ご協力ください。

各ご家庭へお願いばかりで大変申し訳ありませんが、よろしく願いたします。

現場実習で必要なこと

現場実習は、社会生活の練習の機会になります。見方を変えると社会生活で求められることを、意識して練習するかどうかで、卒業後の生活自立につながるか、そうでないかが変わってきます。毎年お知らせしている内容ですが、今一度次の内容を確認していただき、それぞれの実態に合わせて課題設定や家族での支援について考えていただけたらと思います。

「社会で求められること」

生徒には「卒業したら、社会人としての生活が待ってるよ。地域に出て労働したり、創作活動をしたり、それぞれに合った生活をしていくんだよ。」と話をしています。魚沼地区の特別支援学校の卒業生の進路先は、地域的な状況もあり、進学はほとんどなく、企業や福祉事業所がほとんどです。まさに社会人としての生活が待っています。社会での生活を続けていくにはストレスもあります。そんな中、どの進路先でも、どの生徒にも実態や環境に応じて次の3つのことが求められます。



「社会的な集団生活」

企業や福祉施設は大勢の方が働いたり、利用したりしています。家庭での生活や社会生活でも集団での生活があります。一人だけで物事を行うことや個人に合わせて生活することは難しいです。また、マンツーマンの支援を受けながら生活することも難しいです。社会のルールやマナーを守りながら、集団に合わせて行動することが求められます。

「気持ちの強さ」

卒業した後の新しい環境の生活では、嫌なことも出てきます。またその生活を続けていく難しさや課題なども見えてきますし、ストレスもかかります。働く現場においては、厳しい注意・指導もあります。そんな時、課題や困難を乗り越えていく、気持ちの強さが必要です。

「自分でできる」

前述の通り、常時マンツーマンの支援やすべてを個に合わせた生活は難しいです。それぞれの環境で求められる内容は変わりますが、個人に任せられることも多くなるのが実際です。様々な事を自分でできる、行うことが大切になります。

「そう言われれば、そうだよな・・・」という内容ではないでしょうか？

「でも、進路はなんとかかなるでしょ・・・」と思っていたのではないのでしょうか？

卒業後の社会を想定し、在学中に準備しておくのと、なんとかかなるだろうと思って卒業を迎えるのでは、卒業後の生活が良くも悪くも違ってきます。

「卒業はゴールではなく、社会のスタート」なのです。

参考になればと思い前述した3点を踏まえ、卒業後自分らしさを発揮し生きていくために具体的に身に付けてにつけていただきたい「将来に向けて大切な力」を掲載させていただきました。ご覧ください。



将来に向けて大切な力

(一)健康・体力

- ・事業所は毎日働き続けたり、活動をしたりするところです。そのために早寝、早起き、食事をしっかり摂るなど、家庭で毎日規則正しくリズムを整え、健康管理をしていく力が大切です。清潔さを保つことも大切です。
- ・学校は行事があったり、夏休み、冬休みがあったりと休憩や休日が多いのですが、ほとんどの職場は週2日の休日をはさんで丸1日の労働を1年間続けていきます。体力・根気などの持続力が必要になってきます。

(二)一人のできる(身辺自立、作業の取組)

- ・事業所は生産性を高め、利益を追求しているところです。現場での支援者は、学校のように大勢いるわけではありません。また介護をサービスとする事業所でも、支援者の数では同様です。生活習慣が不十分であれば、それだけ事業所の負担となり敬遠される原因となります。支援具を利用したとしても、「一人のできる」「確実にできる」ことが望まれます。



≪具体的には≫

- | | |
|-------------------|--|
| ①食事がきちんとできること | ⑥任されたことに正確に、落ち着いて取り組めること |
| ②トイレがきちんと使用できること | ⑦時間に遅れないこと |
| ③衣服の着替えができること | ⑧ちょっとした時間待ってられること |
| ④持ち物の整理整頓ができること | ⑨通勤や作業場への移動ができること |
| ⑤道具の準備や後片付けができること | ⑩家庭生活や社会生活の中で自分で行うことができること(手伝いや地域活動など) |

(三)集団生活

- ・事業所では仲間と協力しながら仕事を進めていく、集団での生活になります。職場では、マナーを守り、周囲の人と穏やかに接する力が大切です。周囲に好感をもってもらえると本人のよさが発揮できるようになります。
- ・周囲に迷惑と受け取られる行動は好ましくありません。どんな時にどんな行動に表れるのか。喜怒哀楽の表現などをはじめ、障がいに伴う癖や特有の行動について十分理解をしていただくことが大切です。乱暴や奇声、性の問題等は対処に困ってしまう課題です。
- ・集団生活では、指導や注意、人間関係などのストレスが必ずあります。気持ちの強さも必要です。余暇や楽しみを見付け、解消する方法をもっていることも大切です。



(四)意思表示・指示理解(コミュニケーション)

- ・事業所では上司や支援者、同僚と接しながら仕事(活動)をします。本人なりのコミュニケーション手段を使って、挨拶や返事ができる力、自分の意思を伝える力、相手の伝えたいことを理

解する力がとても大切です。(言葉でなくても、やり取りの仕方が定着していることは重要です)

- ①挨拶・「おはようございます」「お先に失礼します」「ありがとうございました」…
- ②返事、報告・「はい」「できました」「つぎは何をすればいいですか」…
- ③自分から聞く、伝える・「おしえてください」「わかりません」「けがをしてみました」…
- ④失敗した時・「すみません」「まちがえました」

かくしたり、ごまかしたりは、絶対にしないこと。自分から正直に話すことが大切です。それによって好感がもたれます。
(製品の中に欠陥品があった場合は、会社の信用にも関わってしまいます。)

(五)興味・意欲・行動

- ・いろいろな物事・取組に興味をもてることは、日常活動を送る上で大切です。この力が無いと引きこもった生活になってしまいがちです。興味をもつことから、意欲がわき、行動を起こせることにつながります。これは仕事だけでなく、休日の過ごし方にもつながります。(友達と一緒に遊びに行けるということも大切なことです)
- ・なぜ働くかという理由(収入を得る、自立する等)が本人なりに分かり、意欲をもって働き、喜びを実感できることが大切です。また、物事に集中して取り組む力、一定時間働き続ける力、嫌なことや苦しいことでも、できるだけやろうとする力も大切です。

(六)危機回避

- ・職場には機械や道具等危険な物がたくさんある場合があります。また通勤する上で、交通安全に気を付けなければなりません。危険が分かり、回避できる力が大切です。
- ・携帯電話からの有害サイトへのアクセス防止や望ましい金銭の使い方、金銭的なトラブルの回避、対人的なマナーなどを身に付けることで危機回避につながります。

(七)善悪の判断

- ・良いこと、悪いことをしっかり理解し、行動できることは大切です。障がいがあるから、許されるというわけではありません。社会で地域の皆さんと一緒に生活していくためには、本人が善悪の判断をしっかりと行行動することは、非常に大切なことです。

※記載した内容は、すべての卒業生・生徒に求められます。(要求されるレベルは異なります)しかし、個々の実態や生活する環境で、具体的に求められる内容は変わります。実習などで現場の様子も見ていただき、お子さんの実態と照らし合わせていただければと思います。また、ここで挙げたものは、すぐには身に付きません。繰り返し繰り返し教えていくことで身に付きます。できるようになってからも、社会で生きていく上で望ましい状態か、チェックと修正をしていくことが必要です。



不明な点があれば、いつでもお問い合わせください。

新潟県立川西高等特別支援学校 進路指導部
TEL 025-768-3325 FAX 025-768-4567
担当: 細井哲明 斎木秀夫 木嶋智子 川井紀子 黒木里佳

